

演題名	湘南慶育病院における入院患者の食の満足度の向上 ～「その人らしさ」を重視した 食事前手洗い・うがいの効果～				
施設名	湘南慶育病院	(ふりがな) 発表者(職種)	しばさき じゅんこ 柴崎 淳子 (看護師)		
(ふりがな) チーム名	きぶん そうかい 気分爽快				
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの				
取り組種別	施策実行型				
改善しようとした 問題課題	昨年度患者の幸せホルモンを増加させるために「食への満足度の向上」に取り組んだ。対策の方法として食前の口腔体操と歌を唱うことを行ったところ若干向上した。人にとって「食事を美味しく食べる」ことは幸せを感じる大きな要因である。しかし昨年度の方法は集団での取り組みであり患者の個性を大切にしたい親身な対応になっていないことが課題となった。「その人らしさ」を大切にしたい関わりとなるテーマを検討した。				
改善の指標と その目標値	(指 標) ①患者への食事満足度聞き取り調査 ②食形態の変化 ③食事摂取量の変化 ④意欲の指標の変化 (目標値) 検討中				
実施した対策	①食事前の手洗いを患者のADLの状態にあわせて実施。石鹸は患者が好むものを使用 ②食事前のうがいを患者のADLの状態にあわせて実施。うがいの水は、水のほか、レモン水、緑茶など患者が好むものを使用 ③食事前の口腔体操を患者の嚥下状態に合わせて実施。先行期に障害がある患者にはメニューの読み上げを行うなど工夫する 関わる時は患者と視線をあわせて行う				
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 未実施 (実施後) 未実施				
歯止めと 標準化					
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1	今福 直美	看護師
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門		2	千葉 直美	看護師
活動期間			3	柴崎 淳子	看護師
リーダー名 (職種)	柴崎 淳子 (看護師)		4	久保 雅昭	理学療法士
活動回数	回		5	軸丸 直美	MSW
			6	小山 康子	事務
		7	伊藤 研晶	事務	
		8	西上 郁子	管理栄養士	
		9	渡部 直美	看護師	
		10	齊藤 美登代	看護師	
		11	倉持 聡美	看護師	
		12	小澤 美樹	看護師	
		13	高梨 珠恵	看護師	
		14	中西 薫	看護師	
		15	村上 裕紀	看護師	

はじめに テーマ選定の経緯



- ・昨年度、湘南慶育病院では患者が「食事を美味しく食べる」ことで「幸せホルモンが増加する」を目標とした
- ・「毎日昼食時には病棟職員だけでなく多部署で協力しながら患者と共に食事前に口腔体操、歌をうたうことを実践した



はじめに テーマ選定の経緯

食堂で口腔体操や歌をうたうことで「食への満足度の向上」の評価は若干向上した
「食事を美味しく食べられる」ことは患者の幸せホルモンが増加することにつながると思われることが出来る



反面
対策実施時には口腔体操にふさわしい曲を選曲したつもりであったが「365歩のマーチ」を唄った時、「365歩のマーチ」を知らない患者がいたり、童謡を唄うときにためらっている患者がいたりした
そのためこの方法は患者個々への親身な対応となっているのか
という疑問があがった

shouman keiiku hospital

テーマの選定



	共通のテーマ	取組みやすさ	データの取りやすさ	緊急度	重要度	病院の方針	効果	総合点
1	誕生日など患者のイベントを祝うことによる食満足度の向上	○	○	△	△	○	○	28
2	食前の手洗い・うがい・口腔体操をすることによる食への満足度の向上	○	○	○	○	○	○	30
3	食事時間に家族が介入出来るよう整えることによる食満足度の向上	○	△	△	△	○	○	24
4	メニューをわかりやすく伝えることによる食満足度の向上	○	△	△	△	○	○	24

shouman keiiku hospital

食事前の手洗い

幸せホルモン↑↑

身体を清潔にすることによる爽快感を感じていただきたい
通常アルコールによる手指消毒を行っているが
流水と石鹸で手洗いをを行うことで「気持ちいい」と感じるのではないかと



手洗いの方法は患者個々のADLにあわせて実施
好みの石鹸などがあれば使用できるよう工夫

shouman keiiku hospital

食事前のうがい



- ・食前の口腔ケアの重要性
- ・爽快感を得ることに加え口腔内の細菌を減少させ誤嚥性肺炎の予防になる
- ・口腔内を刺激することで嚥下機能改善につながる

うがいの水や方法は患者の状態にあわせて提供
義歯のある方は義歯の装着状態も確認



shouman keiiku hospital

口腔体操



「食べ物」を正しく認識するためのアプローチ
 「食べ物」口腔内へ取り込み、咀嚼し嚥下する機能へのアプローチ
 ↓
 認知機能や嚥下状態によって数種類準備
 その患者にあった方法で実施



shouunan keiiku hospital



活動計画

→ 予定 → 実施



活動内容	担当者	2023 12月	2024年 6月	2024年 7月	8月	9月	10月	11月	12月
テーマの選定	全所属長	→	→						
現状把握	TQM 担当者			→					
目標設定				→					
対策立案				→					
対策実施	各部署から 選出				→	→	→		
中間評価							→	→	
効果の確認	TQM 担当者							→	→
歯止めと標準化								→	→
まとめ									→

shouunan keiiku hospital

目標設定



いつまでに	2024年11月までに
何を	病棟入院患者の 食の満足度（幸せホルモン）を
どうする	向上させる

shouunan keiiku hospital

対策の実施



対象者	湘南慶育病院に入院している患者で 手洗い・うがい・食事に介助が必要な患者
実施内容	患者の個性にあわせた方法で 食事前に手洗い・うがい・口腔体操を実施する



shouunan keiiku hospital

効果の確認（指標）



■主観的評価

- ①患者への食事満足度聞き取り調査
- ②手洗い後の爽快感に対する聞き取り調査

■客観的評価

- ③食形態の変化を調査
- ④食事摂取量を調査
- ⑤意欲の指標を調査

→評価の指標は昨年度実施した5項目のうち効果が認められた
4項目を継続し、②手洗い・うがい後の爽快感に対する聞き取りを追加した。

shouunan keiiku hospital

■主観的評価



①患者への食事満足度聞き取り調査

対策実施前後で対象となる患者に

Q1 いつも食事はおいしく食べられていますか



Q2 食欲はありますか



Q3 食べることに喜びを感じていますか



の3点について質問しフェイススケールを用いて5段階で評価

②手洗い後の爽快感に対する聞き取り調査

対策実施前後で対象となる患者に

Q1 手洗いの後、気持ちよかったですか

について質問しフェイススケールを用いて5段階で評価

shouman keiiku hospital

■客観的評価



③食形態の変化を調査

④食事摂取量を調査

⑤対策実施前後で対象となる患者に意欲の指標 (Vitality index)を評価

意欲の指標 (Vitality index)

1) 起床 (Wake up)	<ul style="list-style-type: none"> いつも定時に起床している 起こさないで起床しないことがある 自分から起床することはない 	2 1 0
2) 意思疎通 (Communication)	<ul style="list-style-type: none"> 自分から挨拶する、話し掛ける 挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる 反応がない 	2 1 0
3) 食事 (Feeding)	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで食べようとする 促されると食べようとする 食事に関心がない、全く食べようとしていない 	2 1 0
4) 排泄 (On and Off Toilet)	<ul style="list-style-type: none"> いつも自ら排便意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 時々、排便意を伝える 排泄に全く関心がない 	2 1 0
5) リハビリ・活動 (Rehabilitation, Activity)	<ul style="list-style-type: none"> 療養リハビリに向かう、活動を求める 促されて向かう 拒否、無関心 	2 1 0

除外規定：意識障害、高度の認知障害、急性疾患（肺炎など発熱）

shouman keiiku hospital

さいごに

今年度は昨年度も取り組んだ

「患者の食満足度の向上」を継続していくこととしました

患者に1人1人 親身に対応する大切さを忘れずに

「その人が楽な手洗いの方法」

「その人が気持ちよと思えるうがい」

「その人にあった口腔体操」が実施できるよう

多職種で関わって

取り組んでいきたいと思えます



shouman keiiku hospital